

広島大学学術情報リポジトリの 昔と今とこれから

広島大学図書館 上田大輔

広島のOA：2000年代前半

広島にもオープンアクセス (Green OA) の概念が伝わる



ハーナッド 「転覆計画」

すべての著者が自分の論文をオンライン (リポジトリなど) で無料公開すれば、世界中のすべての論文が読めるようになる。



なんて斬新で
大きなことを
考えるんだ...

広島大学学術情報リポジトリ：2006年



広島大学学術情報リポジトリ
(HiR) 公開

コンテンツの収集方針

できるだけ多くのコンテンツを
収集する



オープンアクセスによって
学術情報流通の改善を

何をやったか？

サービスの認知

- 学内諸会議で説明
- 各学部長を個別訪問して説明、協力依頼
- 全学的・学部学科ごとの説明会(計30回)

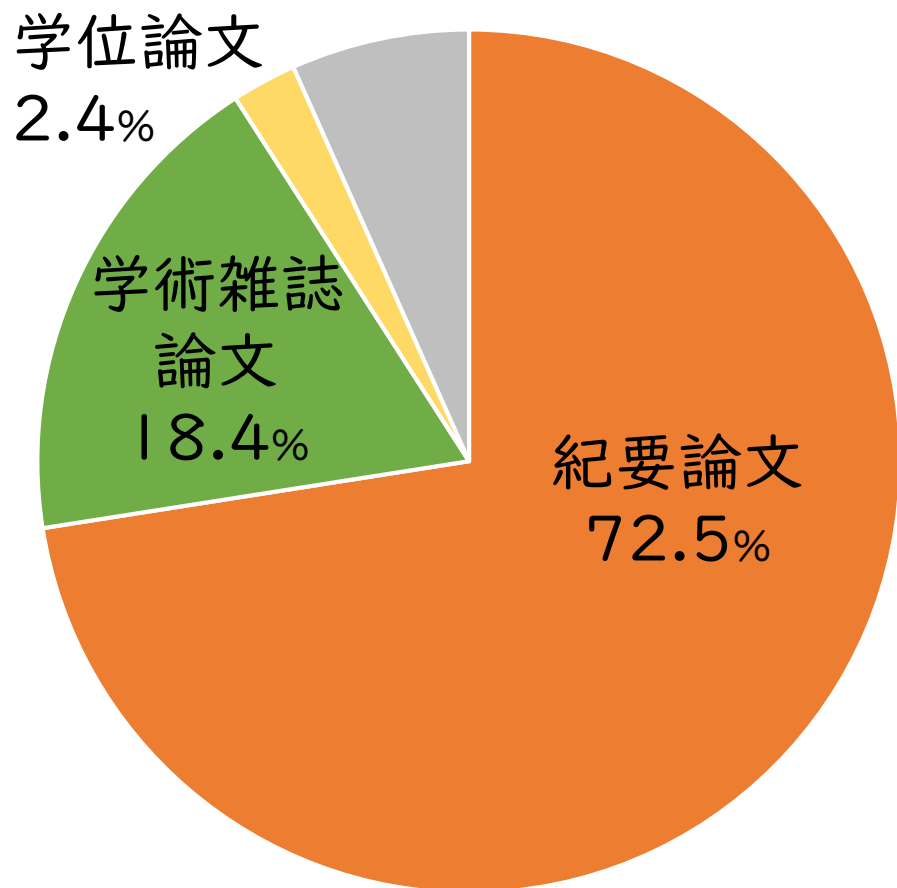
顧客の開拓

- 紀要等の発行団体への働きかけ
- 研究者へのコンテンツ提供依頼メール
- 研究室の個別訪問

人とお金を投入

- 新しくリポジトリ担当の係を設置(専任2名)
- 外部資金を獲得

どうなった？



2006年度登録件数：2,802件

- 初期コンテンツの獲得
- 紀要が中心だが学術雑誌論文も
- 研究者にコンタクトすることで関係性を構築
- 学内では(おそらく)図書館が始めた新規サービスという認識

時は流れて16年後

2006年



2022年



2006年

ドイツ ワールドカップ
ブラジル戦

GK : 川口能活

DF : 加地亮
坪井慶介
中澤佑二

MF : 三都主アレサンドロ
小笠原満男
稲本潤一
中田英寿
中村俊輔

FW : 巻誠一郎
大黒将志



2022年

カタールワールドカップ
に向けた親善試合アメリカ戦

GK : 権田修一

DF : 富安健洋
酒井宏樹
中山雄太
吉田麻也

MF : 遠藤航
久保建英
守田英正
伊東純也

FW : 鎌田大地
前田大然

日本のOA：2020年代前半

研究者



OAの
主流へ

- OAジャーナル論文
- プレプリントサーバ
- 機関リポジトリ
- 分野別リポジトリ など

出版者



- J-STAGE（日本の学会誌）
- 機関リポジトリ（大学紀要）
- F1000（オープンな査読と出版）
など

何をやっているか？

コンテンツ登録に特化

紀要論文

- 学内で登録を義務化
- 編集団体からまとめて登録依頼
- 電子ジャーナルのプラットフォームとして

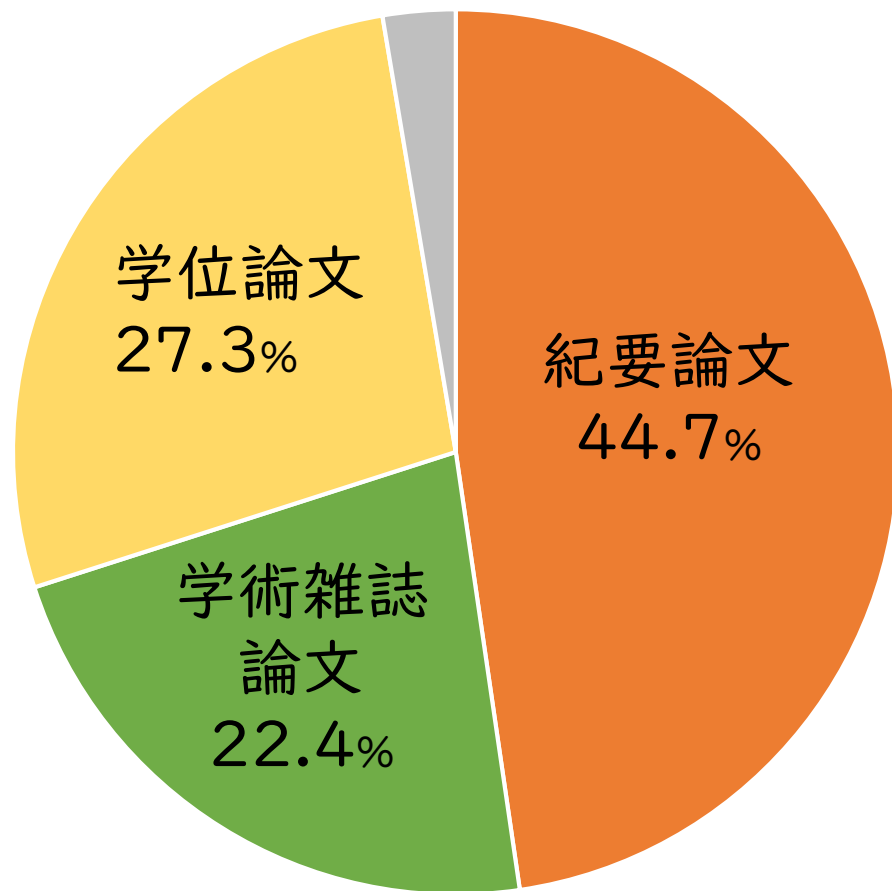
博士論文

- 学位規則の一部改正
- リポジトリでの公表へ
- 教育担当部署と連携して電子データの収集と登録

学術論文

- オープンアクセスポリシーを制定したが...
- 自発的な登録依頼はわずか
- 余力があればコンテンツ提供依頼

どうなった？



2021年度登録件数：1,319件

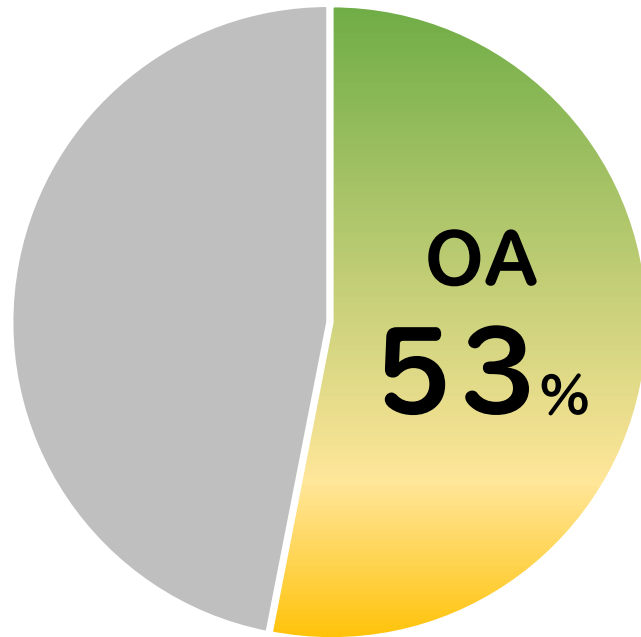
- 紀要論文と学位論文の安定的な獲得
- 学術雑誌論文もそれなりに
- 研究データは年に数件
- 図書館では通常業務になり、学内でもリポジトリは当たり前の存在に

広大リポジトリはGreen OAの担い手になっているか？

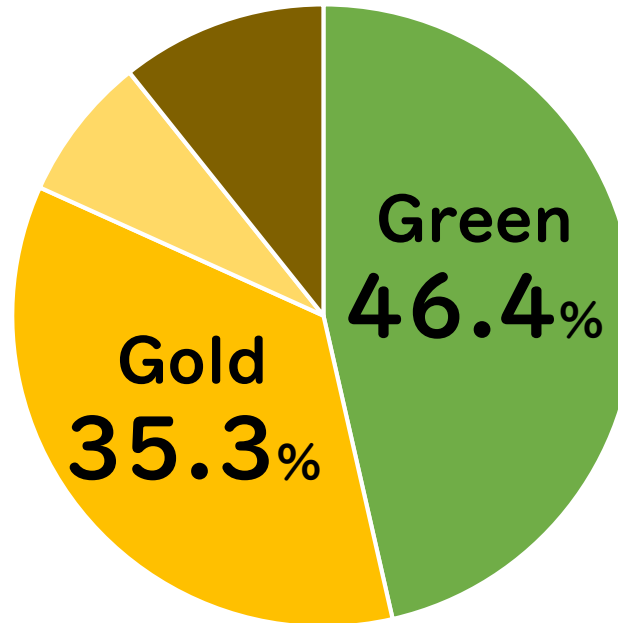
SCOPUSから以下の条件で検索

所属：Hiroshima University 出版年：2021年

全体の中で



OAの中で



Greenの中で



提供者にとってどのコンテンツがニーズがありそうなのか？

お金を払ってでもコンテンツの登録をしてもらえるか？

- リポジトリに登録しなければいけないか？
- リポジトリに登録することで付加価値がつくか？
- リポジトリに登録することでお金や時間を削減できるのか？

どのコンテンツがニーズがありそうなのか？

コンテンツ	必要性	付加価値	お金や時間	総合評価
紀要	✕	○	○	○
博士論文	○	△	△	○
学術雑誌論文	✕	△	✕	✕ or △
研究データ	△	?	?	?

付加価値の提供

広島大学 学術情報リポジトリ

English 検索

HIGHER EDUCATION FORUM

Research Institute for Higher Education
RHE

Higher Education Forum

国際的に重要な高等教育の研究テーマについて、著名な研究者が執筆した論文を収録した刊行物です。国内外の高等教育研究者や機関に配布され、当センターの代表する英語刊行物として注目を集めています。「21世紀COEプログラム」の研究成果の一つとして2003年3月に出版され、その後年1回刊行されています。

発行元: 広島大学高等教育研究開発センター

雑誌トップ

- 19巻 (2022-03)
- 18巻 (2021-03)
- 17巻 (2020-03)
- 16巻 (2019-03)
- 15巻 (2018-03)
- 14巻 (2017-03)
- 13巻 (2016-03)
- 12巻 (2015-03)
- 11巻 (2014-03)

Understanding and Applying the Key Elements of Knowledge Diplomacy: The role of international higher education, research and innovation in international relations

Knight, Jane

PP. 1 - 19

English Medium Instruction Programs in Private Universities in Mongolia: Rationales and challenges

Gundsambuu, Sainbayar

A Competency Level Model for Communication

Walz, Kristina; Braun, Edith

総目次

Publication Ethics and Publication Malpractice Statement

Editorial Board Member

外部リンク

電子ジャーナル
プラットフォーム
の提供

Understanding and Applying the Key Elements of Knowledge Diplomacy: The role of international higher education, research and innovation in international relations

Jane Knight*

Abstract. Few would question the changing landscape of international higher education, research and innovation (IHERI) or the increased complexities and interconnectedness of the relationships between and among countries of the world. But paradoxically, there is a lack of research on the intersection of these two evolving phenomenon. This article aims to address this by proposing the concept of knowledge diplomacy, instead of soft power, to understand the role of IHERI in building bilateral and multi-lateral relationships based on collaboration, reciprocity and mutuality of benefits. A definition and conceptual framework for knowledge diplomacy are proposed and examined in detail. Three IHERI initiatives – The Pan African University, the German Jordanian University and RENKEI – a research network between Japanese and UK universities – are examined to illustrate how the major elements and principles of the knowledge diplomacy framework can be applied. The article ends by posing questions about the future of knowledge diplomacy and the need for further research.

Keywords: international higher education, international relations, innovation, knowledge diplomacy, mutuality, partnership, research, soft power

Introduction

International higher education and international relations have both experienced new rationales, opportunities and challenges. International higher education in many countries is not only the lens of cultural exchange (Byrne & Hall, 2011).

* Adjunct Professor, University of

DOIの付与

Web of Science

Size Effect of Hydroxide Nanobuilding Blocks and Nonionic Block Copolymer Templates on the Formation of Ordered Mesoporous Structures

著者名: Tarutani, N (Tarutani, Naoki) [1], [2], [3]; Katagiri, K (Katagiri, Kiyofumi) [1]; Inumaru, K (Inumaru, K)

Web of Science ResearcherID と ORCID を表示 (Clarivate 提供)

JOURNAL OF PHYSICAL CHEMISTRY B

巻: 125 号: 18 ページ: 4883-4889

DOI: 10.1021/acs.jpcc.1c00713

発行: MAY 13 2021

早期公開: APR 2021

収録済: 2021-06-05

ドキュメントタイプ: Article

移動

三★強化された引用文

Journal of Physical Chemistry B • Open Access • Volume 125, Issue 18, Pages 4883 - 4889 • 13 May 2021

Size Effect of Hydroxide Nanobuilding Blocks and Nonionic Block Copolymer Templates on the Formation of Ordered Mesoporous Structures

Tarutani, Naoki^{a, b, c} ; Katagiri, Kiyofumi^a; Inumaru, Kei; Ishigaki, Takamasa^{b, c}

著者リストにすべて保存

^a Graduate School of Advanced Science and Technology, Hiroshima University, Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8527, Japan

^b Department of Chemical Science and Technology, Faculty of Applied Chemistry, Hosei University, 3-7-2, Kajino-cho, Koganei, 184-8584, Japan

^c Research Center for Micro-Nano Technology, Hosei University, 3-11-15, Midori-cho, Koganei, 184-0003, Japan

出版社で表示

View repository version

12

表示回数

全指標を表示

フルテキストオプション Export

SCOPUS

広島大学学術情報リポジトリ Hiroshima University Institutional Repository

Title	Size Effect of Hydroxide Nanobuilding Blocks and Nonionic Block Copolymer Templates on the Formation of Ordered Mesoporous Structures
Author(s)	Tarutani, Naoki; Katagiri, Kiyofumi; Inumaru, Kei; Ishigaki, Takamasa
Citation	The Journal of Physical Chemistry B , 125 (18) : 4883 - 4889
Issue Date	2021-04-23
DOI	10.1021/acs.jpcc.1c00713
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052859
Right	© 2021 American Chemical Society This document is the Accepted Manuscript version of a Published Work that appeared in final form in The Journal of Physical Chemistry B, copyright © American Chemical Society after peer review and technical editing by the publisher. To access the final edited and published work see https://doi.org/10.1021/acs.jpcc.1c00713 This is not the published version. Please cite only the published version. この論文は出版社版ではありません。引用の際には出版社版をご確認、ご利用ください。
Relation	

広大リポジトリの学内での位置づけは？

2006年

図書館の新規
サービス



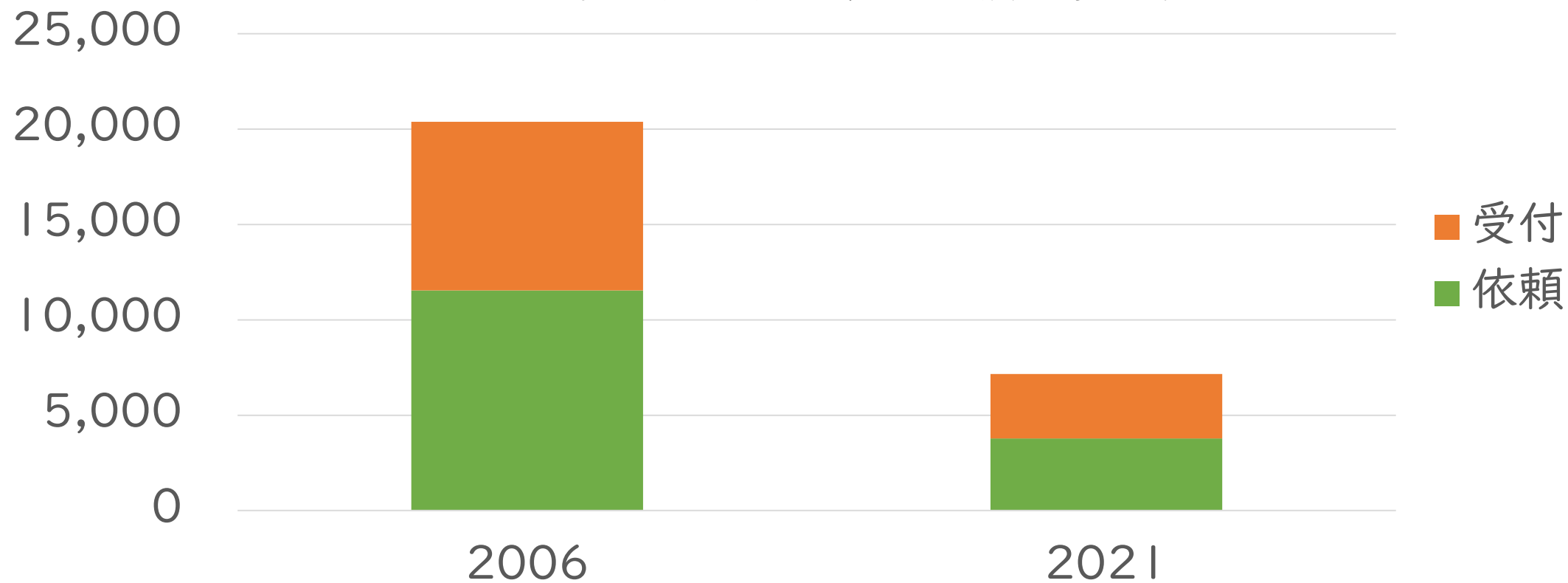
2022年

大学のインフラ

- 紀要の電子ジャーナルプラットフォーム
- 博士論文の公開
- 研究データの公開

学術情報流通の改善

広島大学の学外複写依頼・受付件数



OAだけが要因ではないと思うが、学術情報の流通は顕著に改善

2022年の広大リポジトリまとめ

- 着実にコンテンツを登録する段階
- Green OAの担い手にはなり得ていない
- 学内のインフラとして機能
- 学術情報流通の改善に一役買っている？

これからの広大リポジトリ

どのコンテンツがオープンアクセス・サイエンスが進んでいないのか？

学術雑誌 論文	紀要論文	学位論文	図書	報告書類	研究データ
Gold Hybrid Bronze プレプリント サーバ 分野別リポジ トリ など	機関リポジトリ	機関リポジトリ	出版社ウェブ サイト？	機関リポジトリ 発行団体ウェ ブサイト	データリポジト リ 分野別リポジ トリ 機関リポジトリ
○	○	○	✕ or △	△	△

OAの推進を加速するために

- 研究データは制度が固まりつつあるので、リポジトリなどをベースにした公開が進むと思われる
- 研究成果の公開で一番進んでいないのは図書
- 研究者の需要はある。本を出したくても出せない研究者は一定数存在する。
- 出版会と組んで図書のOAモデルができないか？

教育・学習分野のOAは？

- 研究分野のOAは約20年でかなり進んだ
- 図書館は教育・学習と研究を支援する組織
- 教育・学習分野のOAは進んだのか？
 - 授業動画の公開などは増加

まだまだリポジトリの出番はある

- 授業教材をライセンスを明記した上で公開・再利用可能に
- 授業内容などをもっと深く学ぶための資料を公開

これからの広大リポジトリまとめ

- 引き続き研究分野でのオープンアクセスに貢献する
- 図書オープンアクセスに挑戦する
- 教育・学習分野でもオープンアクセスに貢献し、学術情報流通の改善を目指す

今までで一番うれしかったこと

「yam@広島大」 monograph

書名	最新版	更新日	ファイル
1.「電磁気学における単位系」	第5版第5刷	12/06/04	 (482KB)
2.「成分と基底の変換の相違点」 －群論と行列力学の基礎を理解するために－	第4版第5刷	12/28/04	 (436KB)
3.「物体の速度と物質波の速度」	第2版第2刷	02/15/04	 (176KB)
4.「磁気モーメントとg値」	第2版第2刷	11/21/98	 (143KB)
5.「歳差運動の物理学」 藤村 陽先生監修	第5版第1刷	05/16/04	 (741KB)
6.「Clebsch-Gordan係数と射影演算子」	第4版第3刷	10/06/04	 (855KB)
7.「化学反応速度理論の徹底的理解」 －微視的可逆性から遷移状態理論まで－ 旧版復刊「遷移状態理論の基礎仮定」※1 －遷移状態理論導出過程の理解－	第5版第4刷 第2版第4刷	12/18/04 10/30/99	 (750KB)  (309KB)
8.「熱力学第2法則と状態関数」	第3版第2刷	07/15/03	 (446KB)

先生のウェブサイトで公開





第1回 Monographシリーズ



先進理工学系科学研究科 基礎化学プログラム

山崎勝義 教授

概要

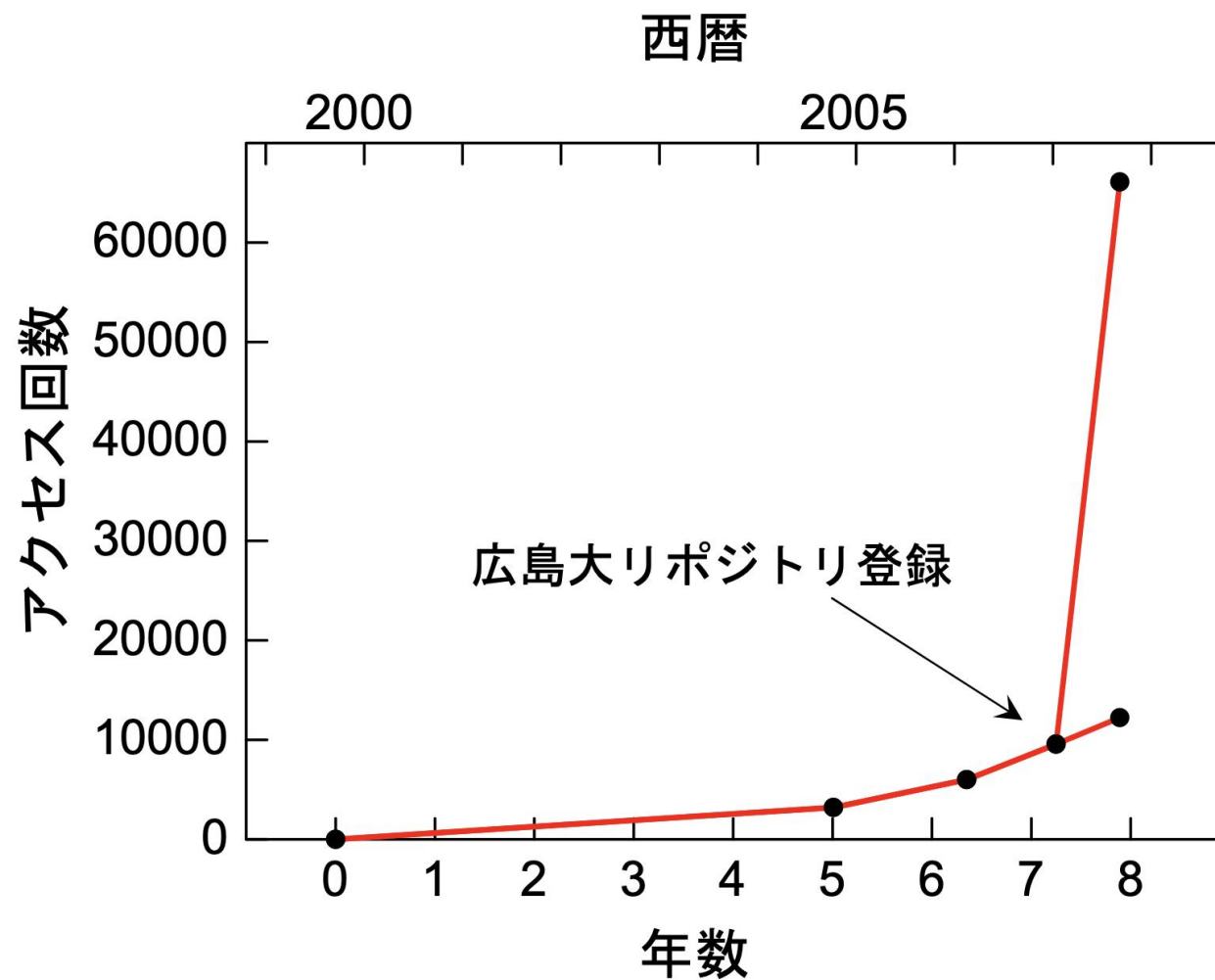
理学研究科化学専攻の山崎勝義教授が執筆された物理化学分野のMonographシリーズです。物理化学の学習過程において生じた疑問点を攻略するというスタンスで書かれたこのシリーズは、物理化学に興味のある多くの人にぜひお勧めしたい本です。

山崎先生からの紹介文

Monographシリーズの各書は、物理化学の基本事項を深く正しく理解することを目的として書かれた単行書です。基本事項の中には、初学者だけでなく研究者にさえ難解な原理や誤解しやすい法則がありますが、それらがなぜ難解なのか、どうして誤解しやすいのか、という原因を教科書から読み取ることは困難です。そもそも教科書は、「書かれていること＝理解すべきこと」というスタンスで著されており、読者が感じる難解さを著者も感じたことがあるとか、読者と同じ誤解に著者自身も陥ったことがあるというような、読者と著者による「疑問の共有」が成立しにくい書物です。そこで、著者自身が抱いた疑問や誤解の経験を示すと同時に、解決目標を明確にしつつ、著者がどのような「武器」を用いてどのように疑問を「攻略」したのかを記した解説書があれば、理解への険しい障壁を低くすることができるのではないかと考えたことが、Monographシリーズの執筆に至った経緯です。Monographシリーズの主な対象読者は大学院学生ですが、学部学生でも最前線の研究者でも、筆者と疑問点を共有していただける方であ

リポジトリから公開
→ダウンロード数の増加、認知度向上

「Monographシリーズ」ファイル 累積アクセス回数



広島大学図書館学術講演会資料
「単行書の公開と機関リポジトリへの期待」から転載

平成28年度広島大学教育賞

「広島大学教育賞」被表彰者

※被表彰者氏名順

○古賀 信吉 氏（広島大学 大学院教育学研究科 教授）

探究的な科学活動を取り入れた長年の授業実践の成果を発展的に活用し、中・高等学校における化学教材の開発をテーマとする研究に学生とともに取り組まれ、その成果を国際的に発信するよう日常的に指導することにより、学生の科学的および教育学的資質・能力の向上並びに国際的評価の獲得に多大な貢献をされました。

○田中 純子 氏（広島大学 大学院医歯薬保健学研究院 教授）

医学研究実習における学生の海外派遣、厚生労働省や国立保健医療科学院と連携した講義の開設、医歯科学専攻への公衆衛生学コースの設置、国際協力研究科教育開発コースと共同した国際協力機構による人材育成奨学計画事業に取り組まれるなど、本学における医学教育の改革と充実に顕著な貢献をされました。

○山崎 勝義 氏（広島大学 大学院理学研究科 教授）

物理化学分野の基礎的解説書「物理化学Monographシリーズ」を広島大学学術情報リポジトリ等で公開し、17年間にわたり継続的に無料で配布することにより、本学の学生のみならず全国の学生および研究者の学習に多大な貢献をするとともに、物理化学分野における本学の教育力を広くアピールされました

リポジトリはこのようにコンテンツが元々持っている潜在的な力や魅力を引き出すことができると思います。

全てのコンテンツが本来持っている力や魅力を最大限生かすことができるように、より多くの人に使ってもらえることができるように、一緒に頑張っていきましょう。